| 学校番号 | 2101 |
|---|---|

# 令和８年度　福祉科

| 教科 | 福祉 | 科目 | コミュニケーション技術 | 単位数 | ２単位 | 年次 | 全年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 「コミュニケーション技術」（実教出版） | | | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | | | |

## 1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、すべてのケースで留意されなければならない一般的なコミュニケーション技術と障がい種別ごとに必要とされる個別のコミュニケーション技術の２つの内容について主に学びます。一般的なコミュニケーション技術は、介護職に就かない場合でも有用な知識・技術になります。特に興味をもって学んでほしいです。障がい種別のコミュニケーション技術はそれぞれの障がいの特性を学ぶことが前提になります。コミュニケーションの方法も大切ですが、障がいの特性についても理解をしてほしいと思います。コミュニケーションの「技術」の理解と獲得を目的にしていますので、理論を学ぶだけではなく、実習・演習などを多く授業の中で行います。意欲をもって取り組んでほしいです。尚、この学校では２単位を１単位ずつａ・ｂと分割し隔年で開講します。このシラバスの内容を重複しないように２年間にふりわけて実施します。

## 2　学習の到達目標

【知識及び技術】
対人援助について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
対人援助の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な対人援助に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

## 3　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技術 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | さまざまなコミュニケーションの技法を理解する。障がい種別ごとのコミュニケーション技術については、それぞれの障がい特性についても理解している。 | コミュニケーションに関する理論について理解しようと努めている。どのような場合にどのような理論や技術を用いればよいか自ら考え、実践しようとする。 | コミュニケーションの理論を積極的に理解し、実習などで技術を身につける。その上で、介護支援の場のみならず日常生活の中で、積極的に活用していく。 |
| 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。 | | | |

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 後半 | 福祉実践におけるコミュニケーション | ・コミュニケーションの意義と役割<br><br>・コミュニケーションの基本技術 | a:サービス利用者に働きかけ人間関係を形成するコミュニケーションについて、その意義や役割について、具体的な事例などを通して理解している。目線・顔の表情・言葉の語調・身だしなみ・適切な距離などを意識し、サービス利用者の感情表現の察し方、納得と同意の得方、質問の仕方、意欲の引き出し方などコミュニケーションの基本技術を身につけている。<br><br>b:利用者の個性やコミュニケーションの場面の特性を考え、どのような表情・語調をとることが適切か、どの技法を使うと効果的か自ら考えることができる。<br><br>c:授業中の様々な実習に意欲的に参加し、自ら発言し、他の受講者とのコミュニケーションも積極的にとろうとする。また日常生活でもコミュニケーションの技法を意識している。 | 単元テスト | 単元テスト<br><br>授業中の発問への解答状況 | ワークシートの取り組み<br><br>授業中の発問への解答状況<br><br>実習への取り組み<br><br>その他授業への参加状況 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | サービス利用者や家族とのコミュニケーション | ・サービス利用者や家族との関係づくり<br><br>・サービス利用者に応じたコミュニケーション | a:サービス利用者（特に障がいのある様々な人々）や介護に関わる家族のそれぞれの特性に関する知識を身につけている。その上で個々のコミュニケーション技法を理解している。<br><br>b:サービス利用者（特に障害のある様々な人々）の特性や介護に関わる家族の置かれた状況をふまえ、どのようなコミュニケーションをとることがふさわしいか自ら考えることができる。<br><br>c:それぞれのサービス利用者の状況や状態に応じた、適切なコミュニケーション技法を身につけている。また家族への支援について、信頼関係の形成過程やサービス利用者と家族の意向を調整する技法、相談・助言・指導する技法など、具体的な事例を通して身につけている。 | 単元テスト | 単元テスト<br><br>授業中の発問への解答状況 | ワークシートの取り組み<br><br>授業中の発問への解答状況<br><br>実習への取り組み<br><br>その他授業への参加状況 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 福祉実践におけるチームのコミュニケーション | ・記録<br><br>・チームによる連携 | a:介護実践における記録の意義や目的、記録の種類、記録の方法と管理、記録の活用と留意点などについて理解している。介護業界の人材不足の実情を理解した上で、人材養成の観点からスーパービジョンの意義を理解できている。<br><br>b:どのように記録をとり管理・活用するか、またどのようなチームのコミュニケーションが効果的か考えることができる。<br><br>c:介護記録の重要性やチームのコミュニケーションとして記録による情報の共有化の重要性に関心をもっている。 | 単元テスト | 単元テスト<br><br>授業中の発問への解答状況 | ワークシートの取り組み<br><br>授業中の発問への解答状況<br><br>実習への取り組み<br><br>その他授業への参加状況 |

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度